

海技協会報2026.10  
VOL.

161

# マリーン・ プロフェッショナル

Japan Marine Construction  
Engineering Association



# CONTENTS



海技協会報

ページ

## 01 巻頭言 近畿支部

### 「神戸港のあゆみに学ぶ」

一般社団法人日本海上起重技術協会 近畿支部長  
寄神建設株式会社 代表取締役社長 寄神 裕佑

## 04 会員寄稿「会員の広場」

東北支部

### みなとまち・あおもり誕生と400年の歩み

株式会社細川産業 事業部課長 増富 明

## 06 会員作業船紹介㊦ 中部支部

### 「第十八御在所号」(杭打船兼起重機船)

株式会社 種瀬組

## 10 海の匠「登録海上起重基幹技能者の紹介」シリーズ㊦ 関東支部

たにもと建設株式会社 日當 豊

## 11 マリーンニュース「事務局だより」

- ・本部活動
- ・中部支部

## 12 インフォメーション「お知らせコーナー・販売図書案内」

## 「神戸港のあゆみに学ぶ」

一般社団法人日本海上起重技術協会 近畿支部長  
寄神建設株式会社 代表取締役社長  
**寄神 裕佑**



2016年5月に近畿支部長を拝命してから早十年、三度目の巻頭言となりました。以前は私どもの会社の本社がある神戸について書かせていただきましたが、今回もやはり地元神戸の港について、歩んできた道のりを振り返ってみたいと思います。

神戸港の歴史は、奈良時代にさかのぼる大輪田泊に始まります。六甲の山並みが北風をさえぎり、和田岬が南西の風を防ぐ天然の良港でしたが、南東からの強風には弱く、停泊中の船がたびたび損なわれたと伝わります。そこに手を入れたのが平清盛公でした。承安3年、私財を投じて泊の前面に人工島を築き、波浪から船を守ろうとしたのです。この島が経ヶ島(きょうがしま/1173年)。日宋貿易の拠点を整えるための、当時としては破格の大事業でした。工事は難航を極め、経文を記し

た石を沈めたとの言い伝えも残っています。海の条件を人の手で変えようとしたその発想は、今日の我々の仕事とも、どこか通じるものがあるように思われます。

時代は下って江戸期、兵庫津は北前船交易の一大拠点として大いに栄えました。淡路島に生まれ、叔父を頼って兵庫津に出た高田屋嘉兵衛は、この地の西出町に本店を構え、辰悦丸を駆って蝦夷地との交易を切り拓きます。のちには幕府の命を受けて国後・択捉間の航路を開き、箱館(江戸時代の旧表記)の発展にも大きく寄与しました。一介の船乗りから身を起こした人物が、この港を足がかりに国の北辺にまで航路を伸ばした、そう考えると、兵庫津という港の持っていた力の大きさが偲ばれます。



そして開港。慶応3年12月7日、西暦にして1868年1月1日、神戸は国際貿易港としての一步を踏み出しました。条約上の開港地は兵庫津とされていましたが、実際に開かれたのは東に3キロほど離れた神戸村。この地に外国人居留地が設けられ、以来150年余り、幾多の困難を乗り越えながら、我が国の経済を支える窓口としての役割を果たしてきました。さて、その神戸港は今、次の節目に向けて動き出しています。大阪湾岸道路西伸部、六甲アイランド北から長田区駒栄に至る延長14.5キロの事業です。平成30年の起工式を経て、現在は六甲アイランド地区で橋梁工事、駒栄地区でトンネル工事が本格化しています。六甲アイランドとポートアイランドを結ぶ区間には、主塔4本を備えた全長約2.7キロの連続斜張橋が計画され



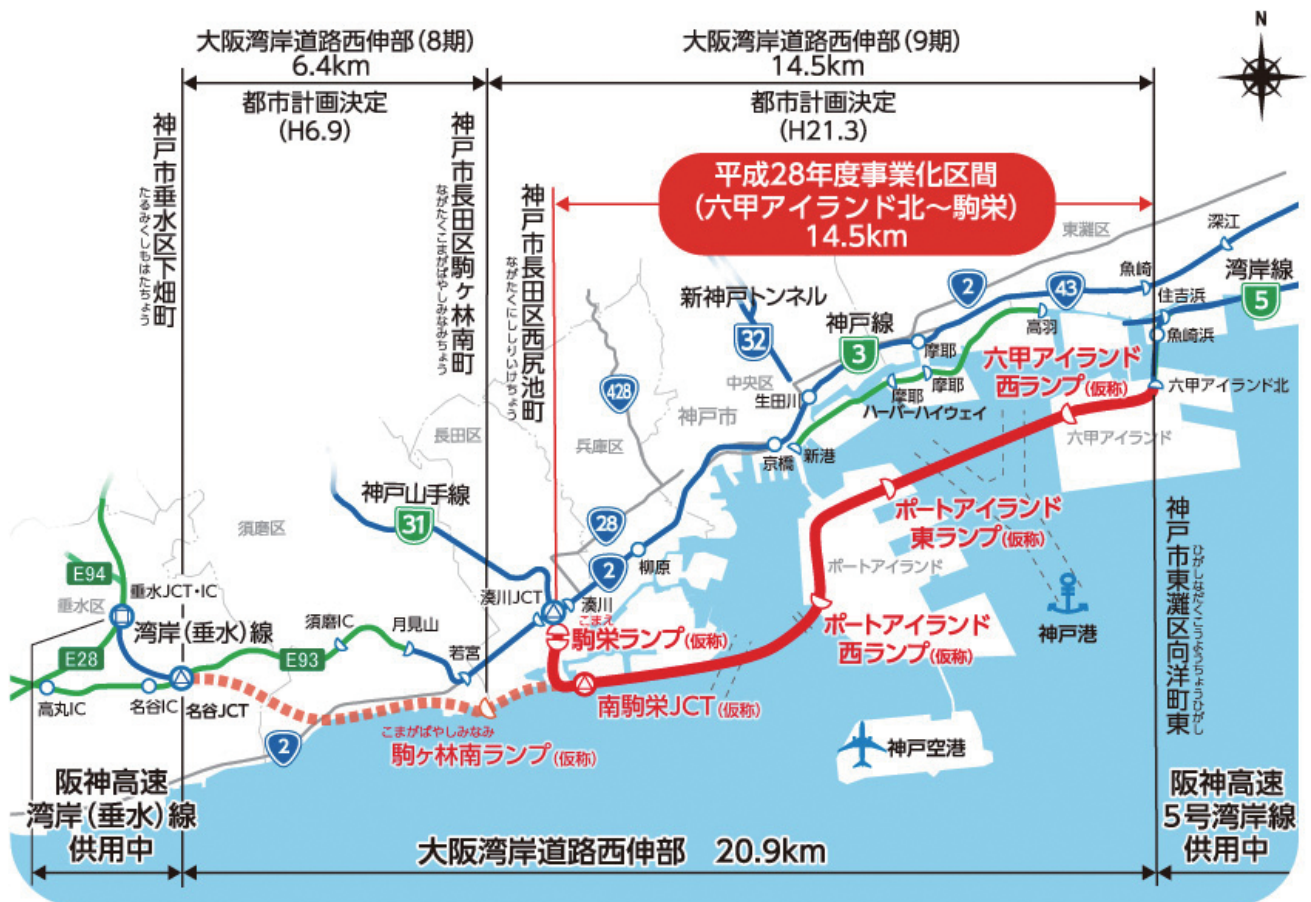
※兵庫区切戸町にある清盛塚と平清盛像(※弊社から徒歩数分の場所に位置します)

ており、完成すれば神戸の新たな景観となること  
でしょう。阪神高速3号神戸線や国道43号の交通  
負荷を和らげ、コンテナターミナルへのアクセス  
を改善し、港と道路が一体となって初めて、港湾  
はその力を十分に発揮します。海上に構造物を築  
いて港の機能を高めるという 意味では、これも  
また清盛公の事業から連なる系譜と言えるのかも  
しれません。

脱炭素化、自動化、そして激しさを増す国際競

争。私たちが向き合う課題は決して小さくありま  
せん。しかし振り返れば、先人達もまたそれぞれ  
の時代の難題と格闘しながら、この港を今日の姿  
にまで育ててこられました。その歩みに学びなが  
ら、次の世代に胸を張って引き継げる神戸港を造  
るべく、支部会員一同、力を合わせて取り組んで  
まいります。

引き続き、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜  
りますようお願い申し上げます。



※大阪湾岸道路西伸部 事業概要(写真引用:阪神高速道路株式会社)

# みなとまち・あおもり誕生と 400年の歩み

株式会社細川産業 事業部課長 増富 明

青森港は1625年の開港から数えて400年という記念すべき節目を迎えました。この長い歩みの中で、青森港は本州と北海道を結ぶ交通・海運の要所として発展し、近年では世界各国から大型クルーズ船（豪華客船）が相次いで寄港する国際的な観光拠点へと劇的な変貌を遂げています。

青森港の歴史は、1625（寛永2）年5月15日に弘前藩の第2代藩主である津軽信枚（つがるのぶひら）が、江戸幕府から津軽と江戸を結ぶ廻船（かいせん）の就航許可を得たことから始まりました。翌1626年には地名が正式に「青森」と定められ、本格的な港町としてのまちづくりが始動しました。それまで「外浜（そとのはま）」と呼ばれていた静かな湾岸地帯は、幕府から北海道との渡航的重要港として位置づけられ、北前船などが往来する海運と商業の拠点として急速に栄えていきました。

近代に入ると、青森港の重要性はさらに高まります。1907（明治40）年に「第2種重要港湾」へ指定され、翌1908（明治41）年には本州と北海道を結ぶ「青函連絡船」が就航しました。

これにより、青森港は日本の人流・物流を支える大動脈としての母体を確立します。

太平洋戦争では、空襲により青函連絡船が壊滅的な被害を受け青森市内は焼け野原になるなど甚大な戦災を経験したものの、市民は戦後すぐに「戦災復興港祭り（のちの青森ねぶた祭の発展に寄与）」を開催するなど、港を中心とした力強い復興を遂げました。



青函連絡船「八甲田丸」

1951（昭和26）年には国から「重要港湾」に指定され、近代的な港湾機能の整備が本格化します。1988（昭和63）年の青函トンネル開業に伴い青函連絡船はその役割を終えましたが、港は物流・旅客フェリーの拠点、そして市民や観光客が海に親しむ「みなとオアシス」へと、時代に合わせたアップデートを重ねていきました。

400年の歴史を持つ青森港が、現在最も活気を見せている分野の一つが「クルーズ客船」の受け入れです。青森港へのクルーズ船寄港数は右肩上がりが増加し、東北地方の中でトップの寄港数を誇ります。近年は乗客定員が5,000人を超える「オペション・オブ・ザ・シーズ」のような超大型客船や、「飛鳥Ⅱ」などの国内外の著名な船が相次いで寄港しています。

クルーズ船の増加は、青森市や周辺地域へ絶大な経済効果をもたらしています。一隻の大型船が寄港

するだけで、数千人規模の外国人観光客や富裕層が街に降り立ちます。乗客は貸切バスなどで県内各地の景勝地を巡るほか、港周辺の商業施設で飲食や買い物を楽しみ、地域の消費を大きく押し上げています。

地域に絶大な経済効果をもたらす一方、「早朝の観光コンテンツ不足」という新たな課題も浮き彫りになりました。クルーズ船の多くは朝6時～7時といった早い時間帯に寄港しますが、市街地の多くの店舗は10時前の営業を行っておらず、寄港直後の観光客を受け入れる体制が整っていませんでした。

この課題に対し、青森港では地域一体となったユニークな取り組みが始まっています。

市や県、地元商店街などが連携し、午前10時より前から営業している温泉や喫茶店、お土産店など51店舗を網羅した英語表記の朝型店舗マップ「MORNINGS IN AOMORI」を製作・配布し、早朝の回遊性を高めています。また、港周辺では朝早くから飲食や雑貨ブースを並べるマルシェやモーニングマーケットの実証実験・開催も行われており、外国人観光客や富裕層のニーズに合わせた柔軟な受け入れ体制の構築が進んでいます。ウォーターフロント



クルーズ客船「オベーション・オブ・ザ・シーズ」

にある複合施設A-FACTORY(エーファクトリー)なども、客船寄港時には多くの観光客で賑わい、地元のリング製品やシールドなどの消費を大きく押し上げています。

1625年に津軽信枚が灯した開港の灯火は400年の時を経て、世界中から巨大な豪華客船を迎え入れる国際港へと進化を遂げました。豊かな歴史を振り返りつつ、課題をチャンスに変える地元の熱意と充実した港湾インフラを武器に、青森港は海と人、そして地域と世界を繋ぐ賑わいの舞台として、次の100年に向けた新たな航路を力強く進み始めています。



複合施設A-FACTORY(エーファクトリー)

# 「第十八御在所号」(杭打船兼起重機船)



株式会社 種瀬組



第十八御在所号（杭打船兼起重機船）全景

## 1. はじめに

当社は昭和 31 年の創業以来、海上および陸上における杭基礎工事の専門企業として、港湾・橋梁・護岸などの社会インフラ整備に携わり、我が国の基盤づくりを支えてまいりました。大型起重機船や杭打船などの自社設備を活用し、確かな技術力、安全への徹底した配慮、そして高い現場対応力を強みに、多様な施工実績を積み重ねています。

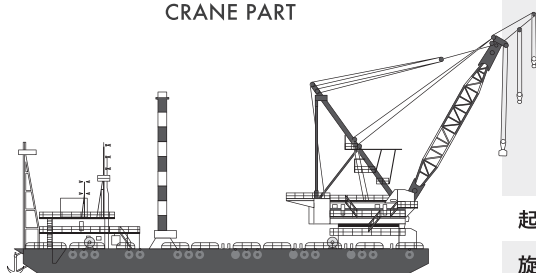
なかでも、当社にとって大きな転機となった設備投資が、平成 8 年（1996 年）に完成した杭打船兼起重機船「第十八御在所号」です。本船は、全旋回 550t 吊という国内最大級の吊能力を有し、羽田空港 D 滑走路、名古屋港栈橋、東京ゲートブリッジ、さらには東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の会場となった海の森水上競技場など、数々の大規模海上プロジェクトの施工に携わってまいりました。

## 2. 主要諸元

### クレーン部

[杭打部]

CRANE PART



ディーゼルエンジン 三菱重工業 S12R-T2MPTAW[1104kw/1800rpm]

巻上・巻下装置 トルクコンバータ&油圧駆動式

主巻ドラム 45ton×55.0m/min 1基(複胴)

パイル吊り兼補巻ドラム 25ton×80.0m/min 1基(複胴)

ハンマ吊りドラム 24ton×40.0m/min 1基

オーガ吊りドラム 24ton×40.0m/min 1基

パイル補助吊りドラム 24ton×40.0m/min 2基

雑用ドラム 5ton×30.0m/min 4基

起伏装置 油圧駆動式

旋回装置 油圧駆動式(旋回中心とフットピンの距離:6.0m)

後部旋回半径 11.0m

ローラーパス径 11.0m

クレーン下部高さ(上甲板上) 4.0m

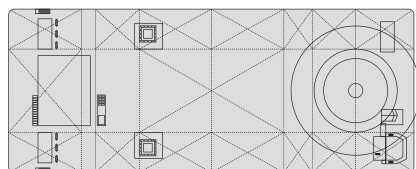
カントリー高さ(上甲板上) 約26.5m

|         |             |               |
|---------|-------------|---------------|
| 主 要 装 備 | 電子速度制御装置    | 杭打装置          |
|         | 補巻装置        | リーダー角度計       |
|         | アナログ式ロープ速度計 | パイルキーパー(2段)   |
|         | モーメントリミッタ   | 下部リーダー油圧式反転装置 |
|         | パイル吊り用荷重計   | GPS船体測位装置     |
|         | 旋回角度計       |               |

製作メーカー 株式会社SSK

### 台船部

BOAT PART



台 船 寸 法 L70.0m×W28.0m×D4.5m

主 発 電 機 500KVA[エンジン427kw/1800rpm]

補 発 電 機 150KVA[エンジン135kw/1800rpm]

操 船 ウ イ ン チ 油圧式[ワーピングドラム付](複胴)

(テンションメーター付) 4基[船首、船尾 各2基本]

(レンジメーター付) ワイヤ ドラム 22/11ton×8/14m/min

ホーサードラム 22/11ton×8/14m/min

油圧式(単胴)

4基[船首、船尾 各2基本]

ワイヤ ドラム 18/9ton×10/20m/min

バ ー ジ 引 寄 ウ イ ン チ 電動式(単胴)

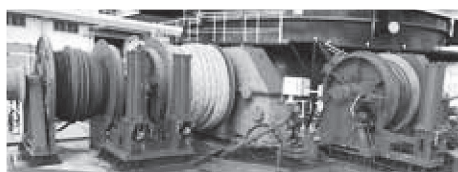
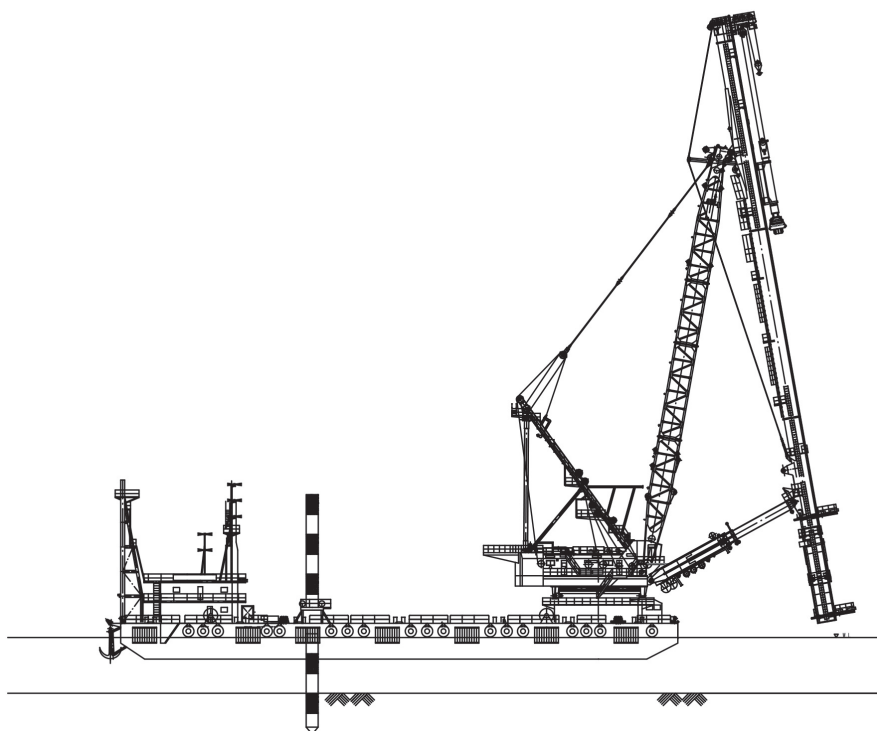
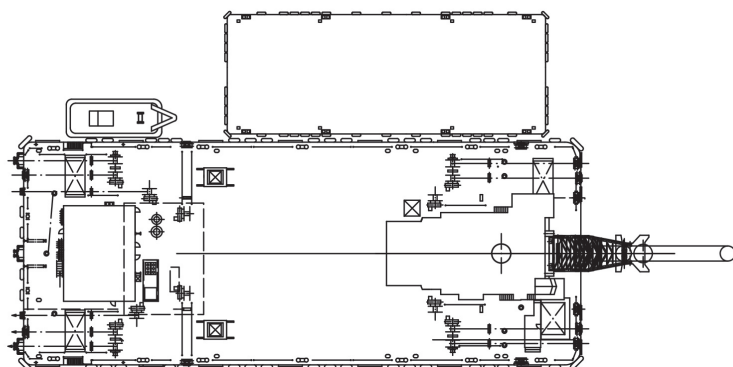
2基[船側両舷 各1基]

ワイヤ ドラム 8ton×6m/min

製作メーカー 石川島播磨重工業株式会社

## 会員作業船紹介

杭打船による鋼管杭打設（斜杭+10°）



### 3. 第十八御在所号（杭打船兼起重機船）の特徴

#### ○国内最大級の吊能力 （全旋回 550t 吊）

リーダー長 75m（最長 85m）を備え、直杭では最大 60t・最長 70m（80m リーダー装着時・水面上）の杭打設が可能です。また、斜杭は最大± 25°まで全方向への施工に対応しています。

起重機としては、最大ジブ長 64m に補助ジブ 7.5m を装備し、全旋回 550t 吊性能を活かした重量物の据付作業にも対応しています。

#### ○集中コントロール室による操船

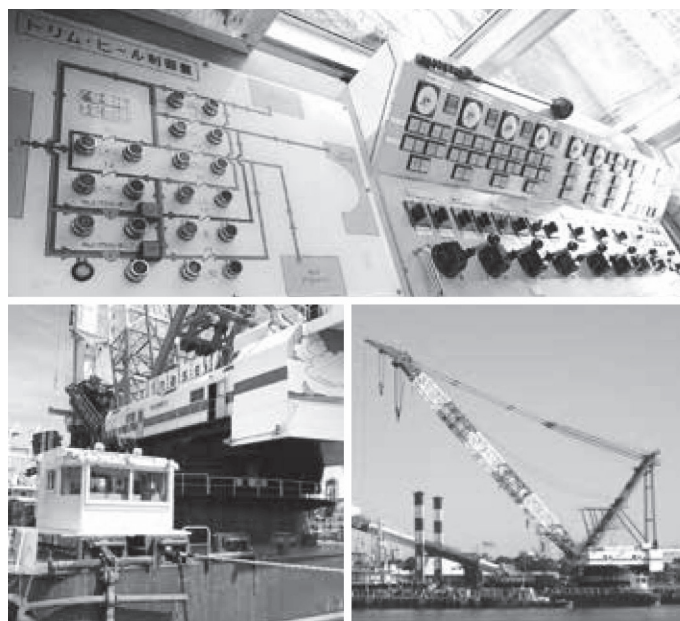
ウインチ、スパッド、船体傾斜の各操作を一か所で集中制御できる操船システムを採用しており、船体の移動から位置決め、固定までを効率的かつスムーズに行うことができます。

#### ○高精度な位置保持を実現する ウインチ・スパッド

操船設備として、複胴ウインチ（22/11t × 8/14m/min）4 基〔テンションメーター・レングスメーター付〕、単胴ウインチ（18/9t × 10/20m/min）4 基、およびスパッド（1,500mm 角 × 30m）2 基を装備しています。これらにより船体を確実に固定し、高精度な杭打設を実現しています。

#### ○GPS 船体測位装置による 高精度な杭位置誘導

リアルタイムポジショニング GPS を採用し、船体位置および杭位置をクレーン運転室と操船室のモニターへリアルタイム表示しています。これにより、計画位置への高精度な誘導と施工精度の向上を図っています。



#### ○φ1900の強固な二面リーダーによる 多様な施工への対応

強固なφ1900 二面リーダーを採用し、油圧ハンマによる通常の杭打設に加え、側面へアースオーガを装着することで、油圧ハンマとアースオーガを併用した施工にも対応しています。

さらに、高トルク二軸同軸式アースオーガ（SDA-390）の搭載が可能であり、岩盤掘削や先行掘削など、幅広い施工条件に対応できる高い施工能力を備えています。

### 4. おわりに

私たちは、「杭を打つことで未来を築く」という信念のもと、これまで培ってきた技術と経験を礎に、時代とともに変化する社会のニーズに柔軟に対応しながら、より高度で信頼性の高い施工を追求してまいります。

今後も安全を最優先に、高品質な杭基礎工事を通じて社会インフラの整備に貢献し、安心して豊かな社会の実現に寄与してまいります。

## 海の匠 登録海上起重基幹技能者の紹介

## 関東支部

## たにもと建設株式会社

ひなた ゆたか  
日 當 豊

## プロフィール

- 出身地 岩手県
- 生年月日 昭和45年10月23日
- 職 責 施工管理



## ●経歴

- ・平成 元 年 4月 入社
- ・平成 7年12月 2級土木施工管理技士 取得
- ・平成20年11月 登録海上起重基幹技能者 取得

## ●主要工事実績

- ・令和6年度 横浜港新本牧地区岸壁(-18m)(耐震)築造工事
- ・令和5年度 横浜港新本牧地区護岸(防波)南側築造工事
- ・令和3年度 新本牧ふ頭建設工事  
(その28・外周護岸B-2基礎及び本体工事)

## ●今後について

入社から37年、京浜地区の護岸や岸壁工事、東北の震災復興工事など、多くの海上工事に携わって来ました。今後は、この経験を次の世代へ確実に引き継ぐ事が自分の役割だと考えてます。

下記の写真は、横浜港新本牧ふ頭建設工事の一部を紹介します。鋼板セル中詰完了後、クレーン船(700 t吊り級)を使用し蓋ブロック(100t/個)50個の据付を無事故、無災害で終えた現場の写真です。

工事名：令和6年度横浜港新本牧地区岸壁(-18m)(耐震)築造工事

施工者：若築・りんかい日産・大本建設共同企業体



右：三国屋建設株式会社 いばらき700 700t吊り

左：株式会社斉藤組 ㊟ 252号 200t吊り

# マリーンニュース 事務局だより

## 本部活動

令和8年7月21日

### ◇安全対策委員会

1. 港湾空港直轄工事の事故発生状況について
2. 直轄工事の令和8年度重点対策について
3. 作業船の安全パトロール及びポスター作成について

令和8年7月23日

### ◇広報・事務担当者会議

1. 本部活動について
2. 支部活動について
3. 広報活動について

令和7年8月3日

### ◇常任委員会幹事会

1. 令和8年度港湾局長要望について
2. その他

## 中部支部

(一社)日本海上起重技術協会中部支部

### 令和8年度総会概要

令和8年度当中部支部総会については、令和8年9月17日、静岡、愛知、三重の各県から会員24名中24名（委任状7名含む）が出席し、静岡県静岡市で開催された。

総会には、来賓として、国土交通省中部地方整備局港湾空港部から加賀谷俊和港湾空港部長、清水港湾事務所から出水孝征所長、(一社)日本海上起重技術

協会から寄神茂之会長、山本寿生副会長、富田幸晴専務理事をお迎えし開会した。

議事に先立ち、佐野茂樹 支部長が挨拶し、続いて、(一社)日本海上起重技術協会会長 寄神茂之 様、国土交通省中部地方整備局港湾空港部長 加賀谷俊和 様からご祝辞をいただいた。

このあと、佐野支部長を議長に下記議案の審議を行った。

第1号議案 令和7年度事業報告について

第2号議案 令和7年度決算書・監査報告について

第3号議案 令和8年度事業計画（案）について

第4号議案 令和8年度予算書（案）について

第1号議案から第4号議案まで原案どおり可決承認された。

又、富田幸晴専務理事より本部報告事項を行っていただき、続いて、記念講演として、出水孝征 清水港湾事務所長より「最近の港湾行政について」について講演をいただき無事総会を終了した。

総会、記念講演終了後、参会者一同で懇親会を開催し、3県にまたがる会員同士、諸課題を語り合いながら親睦を深めていただき、和やかなうちに全行事を終了することができた。

今回の総会を通じ、国土交通省港湾局の令和9年度予算概算要求における、「持続的な経済成長の実現」、「国民の安全、安心の確保」、「個性を生かした地域づくりと持続可能で活力ある国づくり」の3つの取り組みについて、理解を深めることができた。

また地域活性化における港湾や災害復旧における作業船の重要性に加え、中部地方整備局におけるコンプライアンスの取り組みの重要性を再認識するとともに、会員相互の連携を深めることが出来たのではないかと思う。

令和8年9月17日（木曜日）

(一社)日本海上起重技術協会 中部支部  
事務局長 星合信行

## ●お知らせコーナー●

### 安全啓蒙ポスター 配布のお知らせ

毎年度「安全ポスター」を作成し、作業員一人一人の意識向上、啓蒙に役立つこと、及び海上起重作業船団の更なる安全運航に寄与することを願うものであります。

#### 会員への配布

「安全ポスター」は、会員には5部配布し、また発注関係官公庁にも配布しております。なお、部数に余裕がありますので、追加配布を希望される会員は協会事務局へ申し出て下さい。



「安全ポスター」

### 「非自航船における居住設備ガイドライン」 及びポスター配布のお知らせ

令和5年3月、一般社団法人日本埋立浚渫協会、日本港湾空港建設協会連合会、一般社団法人日本海上起重技術協会、全国浚渫業協会、一般社団法人日本潜水協会においては、港湾工事の実施に必要な不可欠である作業船内における良好な居住設備を確保するため、「非自航船における居住設備ガイドライン」を策定しました。

本ガイドラインの着実な実施を通じて作業船乗組員の適正な就労環境を確保し、もって港湾工事に係る担い手の確保を推進していくものです。

#### 会員への配布

「非自航船における居住設備ガイドライン」A4版の冊子及びポスターは、会員へにはそれぞれ1部配布していますが、部数に余裕がありますので希望される会員は事務局へ申し出て下さい。



「ポスター」

### 海技協ホームページ「会員専用ページ」の掲載事項（4月以降掲載分）

#### 〔協会からのお知らせ〕

- 「令和7年度事業報告」
- 「令和7年度収支決算」
- 「第40回通常総会議案」(令和8年4月22日)

(注)会員専用ページは、随時更新していますのでご利用下さい。

「会員専用ページ」を開くためには「ユーザー名」と「パスワード」が必要です。当協会事務担当者にお尋ね下さい。

インフォメーション

海技協 販売図書案内

| 図 書 名                                              | 概 要                                                                                                                                                            | 体 裁           | 発行年月    | 販売価格                                     |
|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|---------|------------------------------------------|
| 作業船団の運航に伴う<br>環境保全対策マニュアル<br>(改訂版)<br>(国土交通省港湾局監修) | 作業船団の運航に伴い自らが発生する排水等の環境阻害要因に対する方策を取りまとめたマニュアル<br><br>海洋汚染防止条約(マルポール条約)の付属書採択に伴う国内法の改正を反映<br><br>・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載                                         | A4版<br>100ページ | 平成30年4月 | 会 員 2,000 円<br>非会員 2,500 円<br>(消費税別、送料別) |
| 作業船団安全運航指針<br>(改訂版)<br>(国土交通省港湾局監修)                | 作業船団の安全な運航に対する安全衛生管理、操船、係留時等の安全対策及び作業船による架空送電線事故防止対策を取りまとめた指針<br><br>労働安全衛生法等の改正を反映、船員労働安全衛生規則に規定されている経験又は技能を要する危険作業に関する事項を新たに記載<br><br>・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載 | A5版<br>200ページ | 令和2年6月  | 会 員 2,000 円<br>非会員 2,500 円<br>(消費税別、送料別) |

※購入は「図書名、部数、送付先、担当者、連絡先、請求書あて先」を記入した FAX 又はメールで、協会事務局へ申し込んで下さい。

FAX 番号：03-5640-9303

E-mail：honbu@kaigikyo.jp

マリン・プロフェッショナル  
海技協会報2026.10 VOL.161

禁無断転載

発行日 令和8年10月

発行所 一般社団法人日本海上起重技術協会  
広報委員会

〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8

ユースビル8F

TEL 03-5640-2941

FAX 03-5640-9303

印刷 株式会社 TBSグロウディア

一般社団法人 **日本海上起重技術協会**



|       |                                                                                                                                                                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本部    | 〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8 ユースビル8F<br>TEL 03(5640)2941 FAX 03(5640)9303<br>URL <a href="https://www.kaigikyo.jp/">https://www.kaigikyo.jp/</a> E-mail <a href="mailto:honbu@kaigikyo.jp">honbu@kaigikyo.jp</a> |
| 北海道支部 | 〒060-0051 札幌市中央区南一条東2-2-5 SB大通東ビル9F<br>(株)濱谷建設札幌支店内<br>TEL 011-211-5222                                                                                                                                         |
| 東北支部  | 〒030-0821 青森市勝田2-23-12 (株)細川産業内<br>TEL 017(723)1451                                                                                                                                                             |
| 関東支部  | 〒104-0044 東京都中央区明石町13-1 (株)古川組内<br>TEL 03(3541)3601                                                                                                                                                             |
| 北陸支部  | 〒951-8650 新潟市中央区西湊町通三ノ町3300-3 (株)本間組内<br>TEL 025(229)8473                                                                                                                                                       |
| 中部支部  | 〒413-0011 熱海市田原本町9-1 青木建設(株)内<br>TEL 0557(82)4181                                                                                                                                                               |
| 近畿支部  | 〒652-0831 神戸市兵庫区七宮町2-1-1 寄神建設(株)内<br>TEL 078(681)3126                                                                                                                                                           |
| 中国支部  | 〒737-0822 呉市築地町4-40 大新土木(株)内<br>TEL 0823(21)1470                                                                                                                                                                |
| 四国支部  | 〒781-0112 高知市仁井田1625-2 大旺新洋(株)内<br>TEL 088(847)2112                                                                                                                                                             |
| 九州支部  | 〒808-0021 北九州市若松区響町3-1-33 (株)白海内<br>TEL 093-751-0350                                                                                                                                                            |
| 沖縄支部  | 〒900-0036 那覇市西2-11-12 1F 丸尾建設(株)那覇支店内<br>TEL 098-869-1617                                                                                                                                                       |